

発行：2017年1月 ニュースレターNo82. WEB版 No7

The Japan Academy of Midwifery Newsletter No.81

発行所 一般社団法人 日本助産学会

〒170-0002

東京都豊島区巢鴨 1-24-1

第2ユニオンビル 4F 株式会社ガリレオ
学会業務情報センター内

TEL:03-5981-9826 FAX:03-5981-9852

E-mail:g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

代表者 高田 昌代

一般社団法人

日本助産学会ニュースレター



巻頭言 新年にあたってのご挨拶

日本助産学会理事長 高田 昌代

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、熊本と鳥取にて大きな地震があり、また年末には新潟で大火が起きました。未だ不自由な生活を強いられている方々におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

昨年は本会の30周年を迎えることができました。ひとえに、会員はじめ関連団体のご指導と、何より妊産婦やその赤ちゃん、家族を含めた、皆様のおかげと感謝しております。また、将来ビジョンとして①助産学発展の推進、②女性と家族を中心とした良質な助産実践の推進、③女性と助産師、医師とのパートナーシップの確立、④ICMへの参画と国際研究交流の促進、⑤社会貢献の活性化、⑥日本助産学会の組織強化を6つの柱として打ち出しました。そして、この中長期的な目標をもとに、活動を始めることができました。

ご存知の通り、周産期を取りまく外部環境としては、女性や子どもの貧困、児童虐待相談件数の増加、産科医、助産師不足と偏在化、ハイリスク分娩の増加と医療機関の集約化、分娩施設の減少と混合病棟化、災害時の周産期体制の未整備など、山積です。無痛分娩の増加も気になります。これらに対する方策として、助産師の出向制度や産後ケア事業の推進、妊産婦のメンタルヘルスの強化、NCPRをはじめJ-CIMELSによる産科出血対応の研修など、様々な取り組みがなされています。日本助産評価機構からは昨年末、2回目のアドバンス助産師の合格者が5,400名と報告がありました。これで、実践力を十分に備えたアドバンス助産師は就業助産師の3人に1人となり、今後の活躍が期待されます。

アドバンス助産師はじめ1人ひとりの助産師の実践には、エビデンスが欠かせません。

今年は、これまでの分娩期ケアのガイドラインを見直すとともに妊娠期ケアのガイドラインも出しました。1月には会員の皆様のお手もとに届くこととなります。是非、助産師が良質なケア提供者であるためにご活用いただきたいと思っております。また、論文投稿システムも変え投稿しやすい環境を作り、若手研究者の支援も考えていきます。

ケアの言語を統一することの重要性から助産学の用語集の発刊も行っていく予定です。国際的には、アジアの助産研究交流を促進し、その情報をお届けできると思っております。

プラハで採択されたICMの基本文書の翻訳版が完成し、ホームページから見るができます。私たちも世界の助産師の1人です。助産師の倫理綱領など重要な文書を掲載しておりますので、ご活用ください。本年6月にはトロント（カナダ）でICM大会が開催されます。日本からも多くの助産師が演題を応募し、採択されたと聞いておりますので、研究の交流が期待されます。今回は、日本助産師会、日本看護協会、全国助産師教育協議会、日本助産評価機構の5団体でブースも出します。是非お寄りください。

今年度は酉年。人には、対象者とのケアを大事にするミクロの虫の目と時代の流れを見る魚の目、そして物事全体を俯瞰的に見る鳥の目の3つが必要とされています。速くて大きな流れの中で、助産師はそして日本助産学会はどうあるべきかを鳥の目で見ながら、会員の1人ひとりの力を結集し、一歩先を見据えた活動になるよう努めて参りたいと思っております。

この新しい年が会員の皆様にとって佳き年になりますように祈念しています。

第 31 回日本助産学会学術集会のご案内 (第 2 報)

第 31 回日本助産学会学術集会会長 葉久 真理
(徳島大学大学院医歯薬学研究部助産学分野)

テーマ「家族の調和をはかる助産学」

学術集会一般演題は、口演 86 題、ポスター 106 題と多数のご登録をいただき誠にありがとうございました。

自然豊かな徳島に、多くの皆様にお越しいただき、実り多い学会となるよう準備いたしております。

プログラムの概要

多くの方のご協力のもと、本プログラムが構成されました。<http://jam2017.umin.jp/>

1. 平成 28 年度定時社員総会・定時学会総会 同時開催

3 月 17 日 (金) 13:00~14:30 に開催いたします。軽食を準備しておりますので、事前参加登録 (申し込み) をお願いいたします。

2. 女性を取り巻く現状と課題

—その解決に向けて—

教育講演や市民公開講演等では、乳がんと遺伝診断、生殖医療と倫理、虐待による脳への影響、産後クライシス予防プログラム、非婚母子への差別と蔑視、ホルモンと母子関係形成、ジカウイルス感染と胎児脳障害、出産・育児に関わる非科学信奉のリスクなど、各領

域の第一人者である講師による講演を企画しました。新たな知見を得て、その解決に向けて取り組むための示唆が得られることと思われます。

シンポジウムやワークショップでは、災害・性暴力被害者や女子受刑者への支援、産科医療補償制度、助産師国家試験で問うべき知識や技能、助産実践に求められる尺度と幅広いテーマで意見交換いただき、対象・状況理解と助産学の発展に繋がりたいと思います。

四国八十八ヶ所第 3 番金泉寺住職による市民公開講座もあります。学会終了後、お遍路を体験されてはいかがでしょうか。

懇親会

徳島と言えば『阿波踊り』です。海外公演でも有名な『娯茶平連』の踊りを堪能いただけます。また、お食事は“地産池消、旬の食材をふんだんに使って真心込めて調理”された会席料理です。

多くの皆様のご参加を企画委員・実行委員一同、心よりお待ちしております。



開催日時：2017 年 3 月 17 日 (金)

3 月 18 日 (土) ~19 日 (日)

開催場所：あわぎんホール (徳島市藍場町 2 丁目 14)

プレコンGRESS
学術集会

事前参加登録：2017 年 1 月 27 日 (金)

締切迫る!

第 31 回 ICM3 年毎大会 (2017 年 6 月 18-22 日：トロント、カナダ) のお知らせ

日本助産学会 国際委員会 関島 香代子, 小黒 道子

1. パレードに参集!

6 月 18 日から始まる ICM カナダ大会に先駆けて、6 月 17 日土曜日、「世界にもっと助産師を」を呼びかけるパレードが開催地トロントで行われます。12:30 に Roundhouse Park (大

会会場であるトロントコンベンションセンターの近く) に集合し、14:00 にパレードはスタート。16:30 頃市庁舎前の Nathan Philips Square に到着するまで 3 キロを練り歩きます。参加助産師は、パレードを盛り上げる太鼓や

色鮮やかな旗や横断幕を要持参。参加者はパレードの到着地である Nathan Philips Square で、ドラムを含む生演奏とダンスで迎えられます！

2. プログラムが決定！

1700 編がエントリーした一般演題は、査読の結果、約 700 編が採択されました。これは過去最大の演題数となります。確定したプログラムはオンラインから閲覧できます (www.midwives2017.org)。

3. 基調講演者が決定！

●Kate Gilmour 氏：国連人権副高等弁務官、前 国連人口基金 (UNFPA) 高官

テーマ「Midwives: making a difference through professionalism (助産師：プロフェッショナルリズムを通して状況を改善する)」

ギルモア氏は前 UNFPA 高官として、特に発展途上国での助産の影響力と助産ケアが女性と新生児にもたらすアウトカムについて熟知しています。それ以前に 12 年以上在籍したアムネスティインターナショナルでは、世界的な財政資金と人権に関する指導及び監督や、政策改革を含む主要な人権綱領の戦略的計画の立案および管理の職責を担いました。キャリア創成期は、社会福祉事業及び公衆衛生で役職を歴任し、オーストラリアで最初の性的暴行に対応する施設を設立しました。女性に対する暴力に関する法改革や政府主催委員会の委員など、名誉ある役職を担ってきました。

●Sally Tracy 氏：シドニー大学 助産学・ウイメンズヘルス研究部門 教授

テーマ「supporting women and children (女性と子供を支援するということ)」

世界で初めて助産学の博士号を授与されたトレーシー教授は、ニュージーランド、英国、オーストラリアで助産学の教育を受け、コミュニティとハイリスクケアに関して豊富な経験があります。これまで、分娩期における産科学的介入に関する疫学、早産、バースセンターでのケアのアウトカムなど幅広いテーマでの研究成果を発表しています。The Royal Hospital for Women での研究活動は、研究知見を実践に応用する際に最適な水準での適応を確保するといったもので、臨床現場に深く根差しています。

4. Gala ディナーのチケット、まだあります！

会期中の 2017 年 6 月 20 日火曜日、Westin Harbour Castle ホテルの Metropolitan Ballroom で祝賀会が行われます。世界中の助産師達とダンスや食事を共にし、思い出深いカナダでの夜を過ごすことができます。

申し込みは大会ホームページから。

開催まで 8 か月を残した時点で、既に 2000 人近くの助産師が参加登録を終えています。

これは、早期事前参加登録 (2017 年 2 月 28 日まで) 割引が終了するまで 4 か月残した時期として記録的な人数です。大会の実行委員長である Malcolm MacMillan 氏は、2017 年 2 月までにあと 1,000 人の追加登録があると予測し、“大会史上新記録となる 4,000 人の参加登録に向けて準備を進めている”と付け加えています。

詳細は website をご参照ください。

<http://www.midwives2017.org/home>

ICM 募金の御礼と継続支援のお願い

一般社団法人日本助産学会事務局

日頃から、皆様方の暖かいご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

今回は徳島県「国際助産師の日」事業促進会様から募金のご協力をいただき、ありがとうございました。

ICM 支援のための募金を常時受付けております。

引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

☆ICM スポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

振替口座番号:00190-8-710931

加入者名:日本助産学会国際基金

☆ ICM セーフマザーフッド基金 ☆

世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における

助産知識の発展を支援する募金です。一口 1,000円

振替口座番号:00240-8-6818

加入者名:日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

事務局からのお知らせ

一般社団法人日本助産学会事務局

新年度【平成 29 年度】会費納入について

本学会は、皆様の会費をもとに運営しております。2月から新年度となります。すでにお送りしました『年会費納入のお願い』をご確認いただき、お振込みがまだの方は下記まで氏名・会員番号等を通知のうえお早目にお振込みください。

・郵便振込：00120-2-763540

加入者名：一般社団法人日本助産学会

通信欄に会員番号と納入年度を明記

・銀行振込：ゆうちょ銀行（9900）〇一九
（セブイキョウ）店（019）

（当座）0763540

一般社団法人日本助産学会（ジャニホジヨウカクカイ）

氏名と会員番号を通知してください。

学会誌投稿（共同研究者含）、学術集会演題応募（共同研究者含）、研究助成応募（研究代表者）等は、会員で該年度の会費納入済みが条件になります。応募される場合は会費納入をお済ませの上、お申し込み下さい。

また、会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞りますのでご注意ください。

なお、納入会費の領収書発行に関してはお手数ですが事務局宛にメールかFAXでご請求ください。

会費納入・会員番号等に関してご不明な時は、事務局までお問い合わせ下さい。

変更届について

住所等の変更に関しては、オンライン会員情報管理システム（詳細は下記）で変更手続きが出来ますのでどうぞご利用下さい。以下のホームページからID（会員番号）とパスワードをご入力の上、ログインいただき、ご希望の手続きを行ってください。

オンライン会員情報管理システム：

https://service.gakkai.ne.jp/society-member/aut_h/JAM

ID・パスワードがご不明の場合は事務局宛お問い合わせ下さい。

オンライン会員情報管理システムがご利用にならない場合は、変更届の書式は問いませんが必ず書面（E-mail・FAX・はがき等）に明記して、その都度お早めにお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

変更届は必ずお出しください。学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報ください。

退会届について

退会届の書式は問いませんが、書面（E-mail・FAX・はがき等）でお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

*次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会届け出をお願いします。退会連絡がない限り会員継続となり、年会費をお納めいただくことになります。特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意ください。会費引き落とし後の退会の会費についてはお返しできません。ただし会費納入年度の学会誌等は送付しますので、十分にご理解いただきたくよろしくお願い申し上げます。

学会誌バックナンバー等の販売のお知らせ

日本助産学会誌バックナンバー第20～29巻は2,500円ただし26巻2号別冊の[エビデンスに基づく助産ガイドライン]は3,000円、30巻は3,500円（各1部）。日本助産学会暦年記録は、1部3,000円。送料は申込者負担です。在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。

申込み方法は、本学会ホームページから申込書をダウンロードして希望を記入の上事務局宛にE-mail添付送信するか、FAXしてください。

一般社団法人日本助産学会事務局

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-24-1

第2ユニオンビル4F

株式会社ガリレオ 学会業務情報センター内

TEL:03-5981-9826 FAX:03-5981-9852

E-mail: g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

ホームページ: <http://square.umin.ac.jp/jam/>

円滑な事業推進のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。